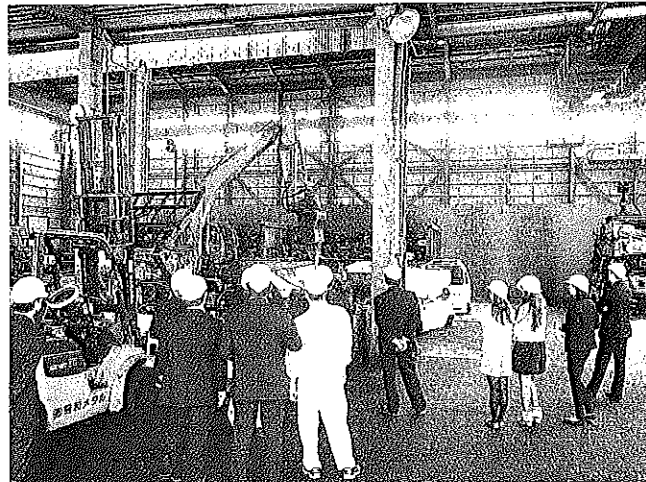


10月25日
(木曜日)

日本自動車リサイクル部品協議会(リ協、清水信夫会長)は17日、「第2回自動車リサイクル工場見学ツアー」を実施した。今回は、損害保険会社や行政などの関係者13人が参加して、埼玉県内のリ協加盟団体企業3社を訪問した。損保業界と整備業界、リサイクル部品業界の3者は、リサイクル(リユース・リビルト)部品の利用率をさらに高めるための議論を活発化している。リ協では、見学ツアーを通じてリサイクル部品の利用拡大に向けて各業界との協力体制を加速させる。

リ協がリサイクル工場見学ツアー

リ協は、使用済み自動車の適正処理、リユース部品とリビルト部品の違い、リサイクル部品の生産から出荷までに、各業界に向けて理解を高めることを目的に見学ツアーを2011年から実施している。昨年は、市民団体のNPO法人持続可能な社会をつくる元氣ネットが視察した。今年には、リサイクル部品の活用促進でリ協と協力体制を持つ損保業界から日本損害保険協会(損保協)と損保各社、国土交通省、経済産業省、日本自動車整備振興会連合会から13人が参加。このうち、12人は自動車リサイクルの現場を訪問するのは初めてで、関心の高さがうかがえる。



ニブラでの解体工程で適正な処理を理解した(昭和メタル)

部品利用拡大へ協力加速

官庁、損保、整備業界から13人が埼玉で3社を視察

内流通の現状などを解説した。また、工場見学ではワイヤーハーンネスとパンパーを破砕して国内で資源循環するための設備やリユース部品倉庫、ニブラを使用した使用済み自動車の適正な処理業務を視察した。続いて訪問した越谷フエンドア(栗原裕之社長、越谷市)岩槻営業所とユーパーツ(清水道悦社長、熊谷市)、リビルト部品事業者の越谷フエンドア(早川一二社長、さいたま市岩槻区)の3社。最初に視察した昭和メタルでは、栗原社長がリサイクル部品の国

訪問先は、埼玉県内のリサイクル事業者である昭和メタル(栗原裕之社長、越谷市)岩槻営業所とユーパーツ(清水道悦社長、熊谷市)、リビルト部品事業者の越谷フエンドア(早川一二社長、さいたま市岩槻区)の3社。最初に視察した昭和メタルでは、栗原社長がリサイクル部品の国

リビルト工程でも質問が相次いだ(越谷フエンドア)



エンジンテスターによる機能確認の解説を受けた(ユーパーツ)

一方、リサイクル部品の活用では、これまで事故損傷車の修理の現場でリサイクル部品の活用に対する意識が高くない事業者も存在していた。しかし、保険料率の改定を背景に、ユーサーが自費での修理を選択する機会が増えることが見込まれ、リサイクル部品の活用が拡大するものと期待も高まっている。

視察を終えて損保協の担当者「リサイクル業界の取り組みを見て、品質と安全性を確信した。(損保各社)の事務局側として自信を持って勧めることができると思う」と感想を述べた。実際に現場を見学することが認識を高める良い機会につながった。

また、経産省では「リサイクル部品市場がより大きくなる契機となれば良い」と期待を寄せる。リサイクル部品を理解してもらったためには、リサイクル業界各社が取引先に向けて工場見学を開催することも、リサイクル部品活用拡大の近道となりそうだ。